

1年生

シラバス

(平成28年度科目概要)

兵庫県立東播工業高等学校 平成28年度入学生 教育課程表

第1学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
機械科(M)	国語総合		地理A	数学I		科学と人間生活		体育		保健	音楽I	コミュニケーション英語I	家庭基礎	工業技術基礎			製図	工業数理基礎	情報技術基礎◇	HR										
電気科(E)	国語総合		地理A	数学I		科学と人間生活		体育		保健	音楽I	コミュニケーション英語I	家庭基礎	工業技術基礎			電気基礎		情報技術基礎◇	HR										
建築科(A)	国語総合		地理A	数学I		科学と人間生活		体育		保健	音楽I	コミュニケーション英語I	家庭基礎	工業技術基礎			製図	建築構造	情報技術基礎◇	HR										
土木科(P)	国語総合		地理A	数学I		科学と人間生活		体育		保健	音楽I	コミュニケーション英語I	家庭基礎	工業技術基礎			実習	測量	情報技術基礎◇	HR										

第2学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
機械科(M)	国語総合		世界史A	数学II		物理基礎		体育		保健	コミュニケーション英語II	(選択) 数学A 化学基礎 英語表現I フォトデザイン ロボット技術基礎(M,E) 自動車工学(M) 電子情報技術(E) 実習(A) 社会基盤工学(P)	実習			製図	機械工作	機械設計	原動機	HR										
電気科(E)	国語総合		世界史A	数学II		物理基礎		体育		保健	コミュニケーション英語II		実習			電気基礎	電気機器	電子回路	電力技術	HR										
建築科(A)	国語総合		世界史A	数学II		物理基礎		体育		保健	コミュニケーション英語II		実習	製図	建築構造	建築施工	建築構造設計	建築計画	HR											
土木科(P)	国語総合		世界史A	数学II		物理基礎		体育		保健	コミュニケーション英語II		実習			製図	測量	土木施工	土木基礎力学	HR										

第3学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
機械科(M)	現代文B		現代社会	数学活用	体育		コミュニケーション英語II		(選択A) 日本史A 数学B ▲英語表現I 生活創造 生産システム技術(M) 電子計測制御(E) 工業数理基礎(E) 建築計画(A) 播磨の地質と耐震(P)	(選択B) 微分・積分 ＊化学基礎 英語会話 アンソナルI 機械工作(M) 電子計測制御(E)	課題研究△			実習			製図	機械設計	HR											
電気科(E)	現代文B		現代社会	数学活用	体育		コミュニケーション英語II				課題研究△			実習			製図	電気基礎	電力技術	HR										
建築科(A)	現代文B		現代社会	数学活用	体育		コミュニケーション英語II				課題研究△			実習	製図	建築構造設計	建築施工	建築法規	HR											
土木科(P)	現代文B		現代社会	数学活用	体育		コミュニケーション英語II				課題研究△			実習			製図	土木基礎力学	土木施工	HR										

◇ 情報技術基礎にて「情報の科学」を代替
 △ 課題研究にて「総合的な学習」を代替

▲ 2年次の選択で「英語表現I」を履修した者は選択できない
 ＊ 2年次の選択で「化学基礎」を履修した者は選択できない

■ : 必修科目

平成28年度 第1学年 シラバス

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
国語	国語総合	2	1		○	○		
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書『新編国語総合』, 漢字ワーク『常用漢字の1・2トライ』, 辞書, ノート								
科目概要	現代文, 古典, 国語表現の分野を幅広く学び, 豊かな教養と確かな読解力・表現力を身につけることを目的としている。 とくに漢字の正確な運用ができるように, 授業では漢字ワークを利用した学習を実施する。	評価観点	興味意欲 関心	内容に関連して積極的に言語活動を行い, 自らの考えを整理して述べ, 他者の意見・主張をきちんと受け入れる姿勢を持っている。				
			表現の 能力	教材内容を正確に読み取り, その情報や考えを整理したことを話したり書いたりして表現できる。				
			理解の 能力	幅広く文章に触れ, 他者の主張, 思い, 考えなどを聞いたり読んだりし, 筆者や話者が伝えようとするものを整理して理解できる。				
			知識 理解	学習を通して, 文章の正確な理解や文学史・表現上の知識を身に付けるとともに, その背景にある文化などを把握している。				
前年度に履修すべき科目		—		評価方法	○定期考査・課題考査 ○提出物(休業中の課題・ワーク・ノート等) ○授業中の取り組み状況			
同時に履修すべき科目		—			以上の全てを総合的に判断して評価します。			
継続で履修すべき科目		—						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
地歴	地理A	2	1		○			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書, 新地理Aノート								
科目概要	現代世界の地理的な諸課題を地域性をふまえて考察し, 現代世界の地理的認識を養う。 地理的な見方や考え方を培い, 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	評価観点	興味意欲 関心	現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高める。				
			表現の 能力	地図や統計, 画像など地域に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択・活用することが出来る。				
			理解の 能力	現代世界の地理的事象から課題を見出し, それを多面的・多角的に考察する。				
			知識 理解	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事象や追求の方法を理解し, その知識を身につけている。				
前年度に履修すべき科目		—		評価方法	定期考査・平常点 ※平常点(毎時間の提出物, 長期休業中課題, 授業態度等)			
同時に履修すべき科目		なし			以上の全てを総合的に判断して評価を行う。			
継続で履修すべき科目		なし						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
数学	数学 I	3	1		○	○		
教材・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
教科書・ノート・サブノート数学 I								
科目概要	「数と式」、「2次関数」、「図形と計量」、「集合と論証」および「データの分析」について学習することを通じて、数学的なもの見方や考え方を養うとともに、基本的な計算方法を身に付けられるように訓練します。	評価観点	興味意欲関心	数学的活動を通して、各分野の考え方に関心をもち、データのばらつきや偏りなどの関係の見識を深め、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する。				
			表現の能力	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともにデータを活用するなど、思考の過程を振り返り多面的かつ発展的に考える。				
			理解の能力	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、課題の解決に数学を活用し的確に問題を解決していく基礎を身につける。				
			知識理解	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などの理解、統計の用語の意味やその扱いについて把握するなど、基礎的な知識を身につけている。				
前年度に履修すべき科目	—	評価方法	1. 定期考査・課題考査により、数学的知識・思考・表現を確実に身につけているかを評価します。					
同時に履修すべき科目	なし		2. 授業態度やノートなどの提出物により、関心・意欲・思考を評価します。					
継続で履修すべき科目	なし							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
理科	科学と人間生活	2	1		○	○	○	
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
教科書：科学と人間生活 問題集：科学と人間生活 演習ノート								
科目概要	1. 基本的な概念や原理・法則を理解する。 2. 自然の事物・事象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。 3. 科学的な自然観を育成する。 4. 現在及び将来における科学の課題と身近な人間生活との関わりについて考察し、環境問題などへの理解を深める。 授業の進め方 板書と説明の時間を分け、聞く・書くを分けた授業形態。また、単元の終了時に学習した内容の確認問題を解き、定着を図る。	評価観点	興味意欲関心	自然の事物や現象に関心をもち、科学の発展と人間生活との関係を意欲的に調査・探究して、科学的な見方や考え方を身につけようとする。				
			表現の能力	自然の事物や現象に問題を見出し、実験・観察・調査を行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。				
			理解の能力	自然の事物や現象に関する調査・実験・観察の技能を習得するとともに、自然の事物現象や科学と人間生活の関係を調査研究する方法を身につけ、それらの過程や結果、そこから導き出された考えを的確に表現することができる。				
			知識理解	自然の事物や現象に関して、人間が長い時間をかけて獲得した知識の有用性を理解するとともに、知識を獲得する方法についても理解し、適切に利用することができる。				
前年度に履修すべき科目	—	評価方法	考査・テスト関係 年間5回の定期考査、小テスト					
同時に履修すべき科目	なし		提出物 ノート、問題集、課題、実験レポートなど					
継続で履修すべき科目	なし		その他 授業（座学・実験）中の取り組み状況、発表内容 以上の全てを総合的に判断して評価します。					

平成28年度 第1学年 シラバス

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
保健体育	体育	3	1			○		
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
体操服・体育館シューズ等								
科目概要	① 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動するとともに 公正協力責任や健康安全に留意する態度を身に付けます。		評価観点	興味意欲関心	運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るよう自ら進んで計画的に運動しようとする。			
	② 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫する力を身につけます。			思考判断	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。			
	③ 各種の運動技能や体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付け、運動の技能や体力を向上させます。			運動の技能	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。			
	④ 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につけます。			知識理解	運動技能の構造と運動の学び方など基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。			
前年度に履修すべき科目	—		評価方法	授業への取り組み状況・授業内での実技テストなどを総合的に判断します。				
同時に履修すべき科目	なし							
継続で履修すべき科目	体育							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
保健体育	保健	1	1		○			
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
教科書・保健ノート								
科目概要	わが国における健康水準の変化、健康問題の変化について理解し、説明することを出来るようになります。		評価観点	興味意欲関心	わが国における健康水準の変化、健康問題の変化について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。			
				思考判断	わが国における健康水準の変化、健康問題の変化について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして説明している。			
				知識理解	健康水準の向上や疾病構造の変化にともなって健康の考え方が変化してきていることや、健康は様々な影響を受けながら主体と環境の相互作用のもとに成り立っていることを理解している。			
				評価方法	授業への取り組み状況・考査点・ノート提出などを総合的に判断します。			
前年度に履修すべき科目	—		評価方法					
同時に履修すべき科目	なし							
継続で履修すべき科目	保健							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態				
					講義	演習	実習	その他	
芸術	音楽 I	2	1		○	○	○		
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など							
高校生の音楽 1									
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ●日本のポピュラー音楽などの親しみやすい教材から入ることにより、授業への積極的な参加を期待する。 ●様々な作品の鑑賞活動を通じて、様々な価値観・多様性の理解に努める。 ●声または楽器（ギター）等による表現活動を通じて、自らの思いを「伝える」だけでなく、他者の演奏に耳を傾けることにより、他者を「理解する」ことにもつなげたい。 	評価観点	芸術鑑賞	積極的聴取を行うことができる。（感想も述べるができる）					
			芸術表現	自らの表現活動に参加し、かつ自分の思いをも表現しようと努力する。					
		評価方法	○平常授業時における授業への参加姿勢（ワークシートなどの提出物を含む）。						
			○実技、ペーパー等によるテスト（数回）。						
前年度に履修すべき科目	—								
同時に履修すべき科目	なし								
継続で履修すべき科目	なし								

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態				
					講義	演習	実習	その他	
英語	コミュニケーション英語 I	3	1		○	○			
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など							
英和辞典，ドリル『Starting Over English』，教科書，『Listening Pilot』，ファイル									
科目概要	<p>日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり、書いたりして伝える基本的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>	評価観点	興味意欲関心	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。					
			表現の能力	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語表現する。					
			理解の能力	日常的な話題について、英語を聞くこと、読むことで情報や意見などを理解する。					
		知識理解	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付ける。						
評価方法	定期考査，課題考査，辞書テスト・及び授業での発表・意欲や提出物等を加味して、総合的に評価する。								
	前年度に履修すべき科目	—							
	同時に履修すべき科目	なし							
	継続で履修すべき科目	なし							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
家庭	家庭基礎	2	1		○		○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
資料集『生活ハンドブック』, ファイル								
科目概要	<p>・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりのなかでとらえ、家族の健康と衣食住、消費生活と環境、福祉などに関する知識と技術を習得し、男女が協力して家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけることを目指します。</p> <p>・この科目の学習においては特に実践的な学習に重点を置き、家族や社会の一員として生活を自分自身でデザインしていく態度を養います。また、同時に生活上で様々な課題にうまく対応することのできる能力と態度を育てていきます。</p>		評価観点	関心意欲態度	人の一生と家族・福祉・衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。			
				思考判断表現	人の一生と家族・福祉・衣食住、消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その解決のために思考を深め、工夫したり創造したりして自分の考えをまとめ、判断する力を身につけている。			
				技能	人の一生と家族・福祉・衣食住、消費生活などに関する、基本的・基礎的な技術を習得している。			
				知識理解	人の一生と家族・福祉・衣食住、消費生活などに関する、基本的・基礎的な知識を身につけている。			
前年度に履修すべき科目		—		評価方法	定期考査の点数、提出物の点数、制作物の点数、発展学習の点数、授業態度から総合的に判断して決定する。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		なし						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業(機械)	工業技術基礎	3	1		○		○	
教材費・準備物等			進路との関係・系列タイプ・資格など					
一部材料費が必要である。								
科目概要	<p>【科目の目標】</p> <p>工業に関する各種の基礎的な技術を実験実習の作業を通して体験させ、工業のもつ社会的な意義や役割、人と技術とのかかわりなどについて理解させる。</p> <p>【授業計画】</p> <p>・機械加工を通して、工作機械の取扱や切削のしくみを理解させる。</p> <p>・手仕上げによる作品製作を通して、工具の取扱と加工手順を理解させる。</p> <p>・計測実習を通して計測器の原理、操作法を習得する。</p> <p>・材料試験を通して各材料の機械的性質を学ぶ。</p> <p>・文章等の作成に必要な技能を学習するため、ワープロ、表計算ソフトを利用して文書作成、表作成、表計算、グラフ作成を行う。</p> <p>・钣金作業による作品製作を通して工具の取り扱いと加工手順を理解させる。</p>		評価観点	興味意欲関心	機械の基礎技術に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。			
				表現の能力	機械の基礎技術について、自ら思考を深めようとしているか。			
				理解の能力	機械の基礎技術について、工作機械、工具、計測器等を正しく取り扱っているか。			
				知識理解	機械の基礎技術に関して、総合的な知識が身についたか。			
前年度に履修すべき科目		—		評価方法	<p>1 課題作品の製作を通して、完成度や工具工作機械、計測器等を安全に取り扱っていたか。</p> <p>2 課題レポート等の提出物</p> <p>3 出席状況や授業態度等</p> <p>以上の全てを総合的に判断して評価する。</p>			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		なし						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (機械)	製図	2	1			○		
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
機械製図 (実教出版)		基礎製図検定に向けての学習						
科目概要	基礎製図検定に向けて 1 正面図・平面図・右側面図の書き方 2 立体図・断面図の理解と書き方 3 補助投影図の書き方 4 展開図の書き方 製作図 1 製作図のあらまし 2 図形の表し方 3 寸法記入 4 交差・面の肌について 機械要素の製図 1 ねじ 2 軸と軸継手	評価観点	関心意欲態度	製図に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。				
			思考判断	製図に関して自ら思考を深めようとしているか。				
			技能表現	機械製図に関する規格を守り製作図がかけるか。				
			知識理解	製図に関する総合的な知識が身につけられたか。				
前年度に履修すべき科目		—		評価方法	1 定期考査および課題考査の素点。 2 図面やプリントなどの提出物が正確にかけられているか。 3 出席状況や授業態度など取り組む姿勢。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		製図						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (機械)	工業数理基礎	2	1		○			
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
工業数理基礎 (実教出版)		工業数理基礎 (実教出版)						
科目概要	・計算技術検定3級についての学習 第1章 基礎的な数理 面積・体積，身近な工業事象，高さ 三角比 第2章 単位と数値処理 国際単位系，単位の換算 第3章 乗り物の数理 速さと速度，電車の走行と円運動 第6章 流れの数理 流れの基礎，流体の流れ，電気の流れ 第7章 構造物と部材の設計 部材に働く力と応力	評価観点	関心意欲態度	様々な工業事象に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。				
			思考判断	種々の工業事象に対し、数理的な方面からの思考を深めようとしているか。				
			技能表現	工業事象に関する計算ができていますか。 また、それを応用することができていますか。				
			知識理解	工業事象を数理的に処理する知識を身につけ、適切に活用することができていますか。				
前年度に履修すべき科目		—		評価方法	1 定期考査及び課題考査・小テスト等の素点。 2 課題やノートなどの提出物。 3 出席状況や授業態度など。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		機械設計						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (機械)	情報技術基礎	2	1		○			
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
教科書・ノート・副教材として問題集使用する								
科目概要	<p>【科目のねらい】 社会における情報化の進展が産業社会や日常生活に及ぼす影響などについて理解させる。ソフトウェア、プログラミング、ハードウェア、マルチメディア・制御・通信など、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。</p> <p>【授業計画】 第1章 産業社会と情報技術 第2章 コンピュータの基礎 第3章 コンピュータシステム 第4章 C言語によるプログラミング（基礎） 第5章 コンピュータ制御の基礎 第6章 情報技術の活用</p>	<p>評価観点</p>	興味意欲関心	情報技術に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。				
			表現の能力	情報技術について、自ら思考を深めようとしているか。				
			理解の能力	情報技術に関する問題点や課題が理解できているか。				
			知識理解	情報技術に関して総合的な知識が身につけられたか。				
前年度に履修すべき科目		—						
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		なし						
		評価方法	<p>1 定期考査および課題考査・小テストなど 2 課題やノートなどの提出物 3 出席状況や授業態度など</p> <p>以上の全てを総合的に判断して評価する。</p>					

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (電気)	工業技術基礎	3	1		○		○	
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
一部材料費が必要である。								
科目概要	<p>【科目の目標】 工業に関する各種の基礎的な技術を実験実習の作業を通して体験させ、工業のもつ社会的な意義や役割、人と技術とのかわりなどについて理解させる。</p> <p>【授業計画】 ・電気実習を通して、各測定器の取扱や抵抗の直並列回路及びオームの法則の原理等を理解させる。 ・文章等の作成に必要な技能を学習するため、ワープロ、表計算ソフトを利用して文書作成、表作成、表計算、グラフ作成を行う。 ・家庭屋内配線工事に必要な電線の接続方法やコンセント、スイッチ、照明器具等の配線や取付方、また、その工事で使用する各種工具の取り扱い方の基礎を学習する。 ・電気計測で幅広く使用されるテスターの原理を理解し、それを製作する中で電子回路の製作に必要な知識と技能を習得する。</p>	<p>評価観点</p>	興味意欲関心	電気の基礎技術に関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。				
			表現の能力	電気の基礎技術について、自ら思考を深めようとしているか。				
			理解の能力	電気の基礎技術について、工作機械、電気工具、計測器等を正しく取り扱っているか。				
			知識理解	電気の基礎技術に関して、総合的な知識が身についたか。				
前年度に履修すべき科目		—						
同時に履修すべき科目		特になし						
継続で履修すべき科目		特になし						
		評価方法	<p>1 課題作品の製作を通して、完成度や工具、工作機械、計測器等を安全に取り扱っていたか。 2 課題レポート等の提出物 3 出席状況や授業態度等</p> <p>以上の全てを総合的に判断して評価する。</p>					

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (電気)	電気基礎	4	1		○			
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
電気基礎 (実教出版) 電気基礎 1・2 演習ノート (実教出版)								
科目概要	電気に関する基礎的な知識と技術を習得する。直 流回路 (直流回路の電圧と電流, 電力と熱エネル ギー, 電気抵抗, 電流の化学作用と電池), 電流 と磁気 (電流と磁界, 磁界中の電流に働く力, 磁 性体と磁気回路, 電磁誘導と電磁エネルギー), 静 電気 (電荷と電界, コンデンサ, 絶縁破壊と放電現 象) などについて学ぶ。また, 習得した知識と技術を 実際に活用できるようにする。	評 価 観 点	興味 意欲 関心	電気基礎に関する諸問題について関心を持ち, 知識およ び問題解決力の向上を目指して意欲的に取り組むとともに 創造的, 実践的な態度を身につけているか。				
			表現の 能力	電気基礎に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深 め, 基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断 し, 創意工夫する能力を身につけているか。				
			理解の 能力	電気基礎に関する問題が理解できているか。				
			知識 理解	電気基礎に関する基礎的・基本的な知識を身に付け, 現 代社会における工業の意義や役割を理解しているか。				
前年度に履修すべき科目	—	評 価 方 法	・定期考査 5 回および課題考査 ・課題やノートなどの提出物 ・出席状況や授業態度 以上の全てを総合的に判断して評価します。					
同時に履修すべき科目	なし							
継続で履修すべき科目	なし							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (電気)	情報技術基礎	2	1		○	○		
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
情報技術基礎 (オーム社) 3・4 級計算技術検定問題集 情報技術検定 2・3 級問題集								
科目概要	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を 理解させるとともに, 情報技術に関する基礎的な知 識と技術を習得させ, 工業の各分野において情報お よび情報手段を主体的に活用する能力と態度を育て ること, 情報モラルを身につけ, 情報および情報手段 を活用する能力や態度を育てる。	評 価 観 点	興味 意欲 関心	情報技術に関心を持ち, 意欲的に取り組んでいるか。				
			表現の 能力	情報技術に関し, 自ら思考を深めようとしているか。				
			理解の 能力	情報技術に関する問題が理解できているか。				
			知識 理解	情報技術に関する総合的な知識が身につけられたか。				
前年度に履修すべき科目	—	評 価 方 法	・定期考査 5 回および課題考査・小テスト ・課題やノートなどの提出物 ・出席状況や授業態度 以上の全てを総合的に判断して評価します。					
同時に履修すべき科目	なし							
継続で履修すべき科目	なし							

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (建築)	工業技術基礎	3	1		○		○	
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
建築設計製図 (実教出版)		初級C A D検定(2年)						
科目概要	【科目の目標】 工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、各分野における技術の興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 【授業計画】 ・建築設計製図の基礎線の練習 ・建築設計製図の練習 木造平屋建の配置図、平面図、断面図、立面図、基礎伏図、床伏図、屋根伏図、軸組図、断面詳細図 ※自由設計にも取り組む。	評価観点	関心意欲態度	建築設計製図について関心をもち、その内容を意欲的に取り組んでいる学習態度・出席状況(遅刻含む)・提出物。				
			思考判断表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。具体的には、質疑応答・観察力。				
			技能	提案内容・作業内容を計画・実行が適切に行われるとともに、その成果を的確に表現している。				
		知識理解	各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け理解している。					
前年度に履修すべき科目		—						
同時に履修すべき科目		製図						
継続で履修すべき科目		製図, 実習						
		評価方法 学期ごとに各作品・課題について10段階で評価し、平均化して授業への取り組みなどを加味して評価する。						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (建築)	製図	2	1		○		○	
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
基礎製図検定問題集 (全工協) プリント		基礎製図検定, 初級C A D検定(2年)						
科目概要	【科目の目標】 『前半』 透視図の作成を通じて、ものづくりに必要な立体を把握し多角的に立体をとらえる知識を身に付け、それを表現できる知識をつけるように育てる。基礎製図検定を受験する。 『後半』 模型・木工・パース・C A Dの各ショップにてそれぞれの作業を通じて建築各分野での興味・関心を持たせ育てる。 ・基礎製図検定の受験 ・透視図の作成 ・C A D実習 ・木工実習 ・パース作図 ・模型作成	評価観点	関心意欲態度	基礎製図検定の問題解答を通じて興味をもち、意欲的に取り組んでいる学習態度・出席状況(遅刻含む)・提出物。				
			思考判断表現	諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。具体的には、質疑応答・観察力。				
			技能	提案内容・作業内容を計画・実行が適切に行われるとともに、その成果を的確に表現している。				
		知識理解	各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け理解している。					
前年度に履修すべき科目		—						
同時に履修すべき科目		工業技術基礎						
継続で履修すべき科目		製図, 実習						
		評価方法 考査を実施し、学期ごとに各作品・課題について10段階で評価し、平均化して授業への取り組みなどを加味して評価する。検定結果も考慮の対象とする。						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (建築)	建築構造	2	1		○			
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
建築構造 (実教出版) 図説建築資料集								
科目概要	木構造 ・構造の特徴と構造形式 木材 接合方法 ・基礎 基礎の形状 ・軸組 土台・柱・桁・梁 ・小屋組 和小屋 洋小屋 ・床組 束立て床 束なし床 ・階段 階段の形状 ・開口部 開口部の納まり ・各部仕上げ 外部仕上げ 内部仕上げ		評価観点	関心意欲態度	建築構造に関する基礎的な知識と技術について関心をもち、その習得にむけて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身に付けようとしている。			
				思考判断表現	建築構造に関する基礎的な知識と技術をもとに実際の建築構造技術について考え、また諸問題を発見し、その解決を目指して自ら思考を深め、適切に判断し、創意工夫、表現する能力を身に付けようとしている。			
				技能	建築構造に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、実際の建築現場を観察、または、想定し、実務的な技能を獲得することができる。			
				知識理解	各種工法を正しく理解し、他の科目との関連性を知ることにより、効果的に学習できることを理解することができる。			
前年度に履修すべき科目		—		評価方法	上記の観点に基づき、 ・考査 ・提出物 ・出席状況、授業中の取り組み状況 等を総合的に評価する。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		なし						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (建築)	情報技術基礎	2	1		○		○	
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
情報技術基礎 新訂版 (実教出版)		パソコン利用技術検定3級						
科目概要	【科目の目標】 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。 【授業計画】 ①講義 コンピュータの特徴を学ぶとともに、基礎的な操作を通して基本的事項について学習する。 ②実習 要求される書式の文章や簡単な図ならびに表を作成するためのワープロ技術を習得する。		評価観点	関心意欲態度	現代社会の中で、めまぐるしく変化する「情報」について関心を持ち、積極的に学習に取り組んでいる。			
				思考判断表現	コンピュータにおける基礎的・基本的な知識や技術を活用し、物事を適切に判断することができる。			
				技能	コンピュータに関わるさまざまな知識を活用し、身に付けたプログラミング技術を適切に、そして正確に処理することができる。			
				知識理解	情報技術に関する基本的事項を身に付け、現代社会におけるコンピュータの役割を十分に理解している。			
前年度に履修すべき科目		—		評価方法	上記の観点に基づき、 ・考査 ・提出物 ・出席状況、授業中の取り組み状況 等を総合的に評価する。			
同時に履修すべき科目		なし						
継続で履修すべき科目		実習						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	工業技術基礎	3	1		○		○	
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
工業技術基礎 (実教出版) 各課題に対応したプリント等で適宜示す。								
科 目 概 要	【科目の目標】 工業に関する基礎的技術を実験・実習を通じて体験させる。工業の全体像を把握し、興味・関心を高める。工業技術の社会における意義や役割を理解すると共に、広い視野を養い工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。	評 価 観 点	関心 意欲 態度	測量と測量機器について関心を持ち、それらの基本的構造を理解しようとする意欲的に取り組んでいるか。学習態度・出席状況・提出物の内容、期限等。				
	思考 判断 表現		各機器の構造を理解し、それらを用いて安全、正確に作業がしているか。各自がそれぞれの作業の意味を理解し、班の一員として合理的に行動しているか。問題点を把握し、それを周囲に明確に意思表示しているか。					
	技能		安全、正確に作業ができることにくわえて、迅速、簡潔に作業を進めることができるか。					
	知識 理解		工業各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術理解し、自らの専門分野にそれを応用できるような思考、態度が養われているか。					
前年度に履修すべき科目		—		評 価 方 法	上記の観点に基づき、 ・授業中の取り組み状況 ・出席状況 ・提出物等を総合的に評価する。			
同時に履修すべき科目								
継続で履修すべき科目		測量、製図						

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	実習	2	1			○		
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
特定の教科書を用いないで、各課題に対応したプリントを配布する。 【参考文献】測量 (実教)、土木材料実験指導書 (土木学会)、その他上記プリント中で適宜示す。								
科 目 概 要	工業の各専門分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。	評 価 観 点	関心 意欲 態度	測量・構造物・建設材料について関心をもち、その技術を積極的に身に付けようとしている。特に、学習態度・出席状況・提出物				
	【授業計画】 ・コンクリートの基礎知識 コンクリート製品の製作を通して基礎的な知識を身に付け、計測・検査・分析をする。		思考 判断 表現	基礎的な技術に関する課題を考え、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。				
	・土木製図の基礎 製図器、ドラフターの取り扱いから始まり線と文字の練習として製図を書く。		技能	基礎的な技術を身に付け、それらの分析装置・測量機器・製図機器を活用している。				
	・水準測量 器高式野帳の測量技術を身に付け、地盤高が求められるようにする。また、測量機器を活用して創意工夫できる能力を養う。		知識 理解	製図の基礎・測量・検査・計測等の基礎的な知識と技術を理解している。				
前年度に履修すべき科目		—		評 価 方 法	上記の観点に基づき、 ・授業中の取り組み状況 ・出席状況 ・提出物等を総合的に評価する。			
同時に履修すべき科目								
継続で履修すべき科目								

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	測量	2	1		○			
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
測量・工業数理基礎 (実教出版)								
科目概要	(1) 基礎的な数理 面積・体積, 身近な工業事象, 高さと三角比, 単位と数値処理 (2) 国際単位系 (S I) 組み立て単位の換算 (3) 距離測量 距離測量用器具, 距離の測定, 測距器械による距離測定 (4) トランシットの測量 測角器械の構造, 角度の観測, 器械誤差 (5) トラバース測量 角度の調整, 方位角の計算, 方位の計算, 緯距・経距の計算, トラバースの調整, 結合トラバース (6) 水準測量 用語の説明, 器械器具, 水準測量の方法, 縦断測量, 横断測量		興味 意欲 関心	測量の役割と技術について関心を持ち, その知識と技術の 修得に意欲的に取り組む姿勢を身につけようとしている。				
			表現の 能力	基礎・基本的な知識を身につけ諸問題の解決を目指し て, 自ら考え, 創意工夫する能力を身につけている。				
			技能	実際の仕事を合理的に計画し, 適切に処理するとともに, その成果を適切に表現することができる。また, 実習・製図 等の関連科目においても知識を適切に活用できる。				
			知識 理解	基礎・基本的な知識を身につけ, 産業社会や生活環境に おける測量の意義や役割を理解する。				
前年度に履修すべき科目	—	評価 方法	1. 定期考査により, 測量に関する基礎的な知識と技術を確実に 身に付けているかを評価する。 2. 課題やノートなどの提出物により, 関心・意欲・思考を評価す る。 3. 授業時の学習状況を観察し, 意欲・態度を評価する。					
同時に履修すべき科目	測量							
継続で履修すべき科目								

教科	科目	単位数	開講年次	定員	授業形態			
					講義	演習	実習	その他
工業 (土木)	情報技術基礎	2	1		○	○		
教材費・準備物等		進路との関係・系列タイプ・資格など						
情報技術基礎 (オーム社) 3・4級計算技術検定問題集 情報技術検定2・3級問題集								
科目概要	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を 理解させるとともに, 情報技術に関する基礎的な知 識と技術を習得させ, 工業の各分野において情報お よび情報手段を主体的に活用する能力と態度を育て ること, 情報モラルを身につけ, 情報および情報手段 を活用する能力や態度を育てる。		興味 意欲 関心	情報技術に関心を持ち, 意欲的に取り組んでいるか。				
			表現の 能力	情報技術に関し, 自ら思考を深めようとしているか。				
			理解の 能力	情報技術に関する問題が理解できているか。				
			知識 理解	情報技術に関する総合的な知識が身につけられたか。				
前年度に履修すべき科目	—	評価 方法	・定期考査 5回および課題考査・小テスト ・課題やノートなどの提出物 ・出席状況や授業態度 以上の全てを総合的に判断して評価します。					
同時に履修すべき科目	なし							
継続で履修すべき科目	実習 (情報)							